

令和元年度 くるめ園事業報告

1 総括

4月に気管支炎や肺炎などの呼吸器感染症をひきおこすウイルスの一種である、ヒトメタニューモウイルスが流行して、行事やクラブ活動も自粛せざる状態となりました。特に5月末に予定していた1泊2日旅行にも影響が出るかと心配されましたが、5月中旬に終息し無事に出かけることができました。クラブ活動や行事への参加率も昨年比で75%に落ち込みましたが、職員の努力もあり年度末には88%を上回る数字に落ち着きました。ただし1月末から新型コロナウイルスへの対応が始まり、施設内での感染予防を徹底したため、ご利用者には年間を通して窮屈な生活を強いることになりました。入退所につきましても、入所2名、退所者1名と低い数値で推移し、安定した1年となりました。ただし、難病を抱えて定期的に入院が必要なご利用者も在籍していることから、入院による空床が多く利用率は93.5%と目標にしていた96%から数値を大きく下回りました。職員配置につきましても、思うように補充ができていない状態が続きましたが、年度末に出した求人誌への反響が高く充足してきました。予算に関しては収入の減少傾向は続いています。職員補充に苦戦した影響で人件費が抑えられ支出が減少しています。ただし、収支バランスは崩れてきているため、今後はプロジェクトチームを中心に、様々な課題について検討していきます。

2 重点目標の取り組みと来期の課題

1) ご利用者が心地よさを感じて過ごせるサービスの提供を目指します。

【目標】

- 1 外部講師を招聘して介護技術の研修を実施し、介護動作について学ぶことで、リスクを回避し安心・安全な介護を実践していきます。
- 2 ご利用者のニーズに沿った半日・一日外出を効果的に実施して、単調になりがちな施設生活にメリハリをつけていきます。
- 3 ご利用者の生活圏を拡大するため、地域資源を活用して作業所への通所などを行なっていきます。また、循環型の施設を見据えて地域移行についての取り組みを積極的に行っていきます。

【取り組み】

ベテランから新人までが統一した介護ができるようにすること、高齢化が進む中で認知症に対する理解を深めるための研修を開催しました。これまでの半日外出に加えて希望者には1日外出を取り入れ、公平性を担保しながら単調な生活にならないように心がけました。また、地域移行を希望している方にはカーサマリモの見学や体験入所を検討しました。

【取り組みの結果】

介護技術と認知症に対する理解について外部講師を招聘して実施しました。介護技術に関しては法人の他施設からも参加していただき、情報交換もできました。外出支援を含む日中支援につきましても4月にはヒトメタニューモウイルス、年が明けて新型コロナウイルスの影響もあり昨年比12%減となり、月平均の参加者は145.8名となりました。グループホームの見学・

体験入所につきましては、見学までは実施しました。体験入所については1名の医療ニーズが高いため中止となり、もう1名は新型コロナウイルスの影響で来年度へ延期となりました。また、年明けにご利用者がアパート転宅を希望したため、福祉事務所等と連携を取り年度内のアパート転宅を実現しました。

【来期の課題】

シフト勤務のため研修に参加できなかった職員への伝達研修方法やフォローアップ研修を実施して介護技術を確実に習得していくことが課題となります。外出支援に関しては、特に1日外出に対してのニーズが予想より低かったため、外食支援など様々なパターンでご利用者の満足度を上げていく必要があります。また今回のように外出支援に制限が出た場合の支援について検討していきます。現状では地域移行等に関する資源が限定しているため、希望する情報が提供できるように社協や近隣の法人と連携を図っていきます。

2) 福祉サービスの提供者としての役割を意識し、専門性と社会性の向上を目指します。

【目標】

- 1 今後も入所が予想される精神障害者で、とりわけ処遇が困難なケースにつきましては精神科医や保健センター等との連携を図り事例検討会や勉強会を開催していきます。
- 2 法人が開催しているスキルアップ研修と連動して、継続して資格取得を奨励しバックアップしていきます。

【取り組み】

高齢化や障害の重度化が進む中で認知症や精神疾患に対する理解を深めていくために、外部講師を招いて研修や勉強会を開催しました。また資格取得を奨励して、法人が開催するスキルアップ研修に参加できるよう必要に応じて勤務調整するなど環境整備を行いました。

【取り組みの結果】

認知症については事例をはさみながら研修することで理解を深めることができました。また、発達障害の研修では参加した職員の脳にも様々な特性があり、その対処方法にも違いがあることを知ることができ、ご利用者への対応のヒントになりました。3月にはパーソナリティ障害について学ぶ予定でしたが新型コロナウイルスの影響で延期となっています。資格取得に関しては3名の方がスキルアップ研修へ参加し、2名の方が資格取得できました。

【来期の課題】

研修で学んだことを現場で実践しながら知識を深めていけるようにします。また、関連研修を開催することで個々のスキルアップを図っていきます。資格取得に関しては未経験者には初任者研修を受講していただき介護の基本を学んでいただきます。また、今後もニーズが高い精神障害を有するご利用者へのメンタルケアを充実させ、安心した生活が送れるような支援体制を構築していきます。

3) 地域の福祉ニーズ対応するサービス提供と地域交流を目指します。

【目標】

- 1 社会資源の一つとして地域に根付いた施設を目指し、地域でのイベント等には積極的に参加して地域ネットワークを構築していきます。

<p>2 施設スペースを活用してパンの移動販売や地域住民の交流の場としての生涯学習教室を定期的に開催していきます。</p> <p>3 生活困窮者に対しては就労準備や就労支援事業を体験して頂き、就労への意欲を喚起していきます。</p>
<p>【取り組み】</p> <p>小平市社会福祉協議会と連携して福祉ニーズ等の情報交換を実施してきました。施設スペースの活用につきましては、年間を通した定期開催と集客人数を増やことに努めました。また、生活困窮者支援に加えて、小平市障害者就労生活支援センターと連携して体験就労の場を提供しました。</p>
<p>【取り組みの結果】</p> <p>小平市社協のボランティアセンターと連携して地域の生活困窮者に食糧支援を実施しました。また、福祉避難所の一つとして社協と地域福祉施設と福祉避難所としてのニーズや役割について話し合いを継続的に行っています。</p> <p>沖縄三線教室は参加者も増えつつあり、現在では地域の住民4名の方が参加しています。パンの移動販売も定着してきて1月より週2回に増やして販売をしています。</p> <p>「小平市障害者就労・生活支援センターほっと」と委託契約を結び就労体験の場を提供しています。</p>
<p>【来期の課題】</p> <p>小平市との協議を継続して、市が作成している防災計画等に沿った、福祉避難所としてのマニュアル作りを行っていく必要があります。沖縄三線教室に参加されている住民の発表会の開催やご利用者との交流が図れるように取り組んでいきます。就労体験は週2回から3回へ変更しましたが、今後も段階的に増やしていきます。また、くるめ園のご利用者で希望する方が就労体験の利用ができるか調整を行います。</p>

4) 職員が笑顔で働ける環境の整備を目指します。

<p>【目標】</p> <p>1 精神障害を有するご利用者の増加に伴い、精神科嘱託医の配置を目指していきます。また、嘱託医には職員が抱える精神科領域についての相談にも対応してもらいます。</p> <p>2 まりもビルにおいて業務調整会議を定期的で開催して、共有部を含めた修繕計画を作り、計画に沿った修繕を実施し環境整備をしていきます。</p>
<p>【取り組み】</p> <p>他法人や関係医療機関などにも依頼して精神科医を探しました。</p> <p>本部営繕担当が修繕を含めた情報を収集しているため、8月を目途に調整会議の開催を目指しました。</p>
<p>【取り組みの結果】</p> <p>以前、嘱託医として勤務していた医師が現場復帰したため4月から再度嘱託医として勤務していただくことになりました。</p> <p>業者に図面を提供して、今後必要とされる修繕について情報の集約を依頼しています。エレベーターの入れ替え工事に合わせて開催する予定であった調整会議は開催できませんでした。</p>

ただし、コロナウイルスの感染対策会議をまりもビル全体で開くことができました。

【来期の課題】

来年度から再び精神科の嘱託医が変わるため、ご利用者が不穏にならないよう嘱託医と連携し定期的な往診と処方ができるように調整していきます。老朽化も進み、突発的な修繕に対応している状況のため、コロナウイルスが終息次第、業者を加えた話し合いができるよう環境を整えていきます。

5) 施設財政の健全化に努めます。

【目標】

- 1 月初在籍 50 名と年間利用率 96%を目指していきます。
- 2 職員の経営意識を高めるため、主任会議や職員会議等において4半期ごとの経営状況の説明を実施していきます。

【取り組み】

東京都保護課と連携して各実施機関へ現況報告を提供していきます。また、関係医療機関等へくるめ園についての情報提供を実施しました。また、ご利用者との面談で来園されたケースワーカーには園の情報を積極的に伝えました。施設の運営状況については四半期ごとに収入・支出の状況を主任会議で提供していききました。

【取り組みの結果】

実施機関等からの問い合わせは増加していますが、女性に限っては待機者がいない状態が続いています。今年度は入退所者が最小限で済んだこともあり、退所による空床はなかったものの入院者が多く目標としていた 96%から利用率を下回り 93.5%となりました。運営状況では職員の補充が予定通りできなかつたことが支出の減少につながったが、介護職員への負担となりました。

【来期の課題】

全国的に見て救護施設の待機者は減少しており、くるめ園においても空床は出ていないが待機者を確保できない状態である。開所以来、重度の身体障害者に重きを置いてきたが、この状態が続く限り、利用対象者については継続的に検討していく必要があります。

収支バランスにつきましては人員確保ができなかつたこともあり、人件費が抑えられたことで収支がアンバランスになることはありませんでした。ただし、年度末に人員補充も完了したことで、人員が定着すると人件費の支出は大幅に増えていくことから、全体的な収支についての説明と昇給財源を含めたシミュレーション等の具体的な数字を提供することが必要となります。

3 申出のあった苦情の対応

苦情申立月	苦情の内容	対応と結果
	無し	

4 発生した事故の状況

種別	件数	内容と対応
関係機関報告事故	3	左手首骨折。夜間車いすを使用せずにトイレまで自力歩行中転倒。骨折部分にずれがなかったためシーネで固定しました。本人には繰り返し車いすの使用を促していきます。
		腰椎圧迫骨折。臀部に痛みがあるため湿布で様子を見ていたが、訴えが続いたため同日に通院し、骨折は確認されたがいつのものかは不明。骨盤ベルトで対応しました。これまで手引き歩行でしたが、PTや家族と話し合い車いすの利用となりました。
		右大腿部骨頭下の骨折。夜間痛みの訴えが頻回にあり、翌朝に通院したところ骨折が判明しました。骨粗しょう症で骨の太さも3歳程度で非常に折れやすい状態との診断。移乗など際に負荷がかかり骨折したと考えられます。手術のリスクは冒さず偽関節が形成されるのを待つこととし、痛み止め3日分が処方されました。今後はスリングシート上で生活していただき、骨折のリスクを減少させていきます。

5 職員体制

(令和2年3月31日現在)

	施設長	副施設長	事務員	生活指導員	医師	介護職員	看護職員	理学療法士	栄養士	調理員	計
職員数	1	1	2	3	2	30	4		1	7	51
うち常勤	1	1	1	3	0	28	2		1	4	41
常勤換算	1	1	2	3	0.1	29.8	2.7		1	5.5	46.025

6 研修の実施状況

1) 施設内研修

研修テーマ	内容	講師	参加職種	延回数	延人員
介護技術研修	介護技術の実践 ボディメカニクス～残存能力チェックや以上方法等	ツクイスタッフ	介護職員	1	16名
認知症のケアについて	認知症に対するアプローチ～事例検討	ツクイスタッフ	指導員、介護職員	1	14名
ケアラーのボディケア	ケアをする人のボディケア～睡眠から腰痛ケア	担当介護職員	指導員、介護職員	1	10名
健康づくり出張講座	ファンクショントレーニングによる正しい姿勢の獲得と肩こり等の予防改	協会けんぽ	事務職員、指導員、介護職員、調理員	1	17名

	善				
リハビリ講習会	利用者対応と基本手技と補装具の着脱方法	機能訓練士	介護職員	1	16名
危険予知トレーニング	グループに分かれてカードを使ったKYTトレーニング	介護職員	指導員、介護職員	1	15名
明るい職場づくりのために	大人の発達障害について	(株)プラスアルファ	全職種	1	16名

2) 施設外研修

研修名	主催	参加職種	人員
救護部会情報交換会	東社協	指導員・事務員	4名
初任者研修	東社協	介護職	1名
精神保健福祉概論	多摩総合精神保健福祉センター	指導員	1名
地域勉強会	救護部会	指導員・介護職	3名
精神科領域の疾病の理解	多摩総合精神保健福祉センター	介護職	2名
援助者のためのメンタルヘルスサポート	多摩総合精神保健福祉センター	指導員	1名
ハラスメントをめぐる課題と対処法	東京都	管理	1名
チーム作りの視点と手法を学ぶ	NPO福祉経営ネットワーク	介護・管理	2名
栄養管理講習会	東京都	栄養	1名
関東地区救護施設協議会職員研修会	関東救協	介護	1名
会計基礎実務研修	東社協	管理	1名
リフトリーダー養成研修	介護リフト普及協会	介護	1名
会計基礎実務研修	東社協	管理	1名
新規職員研修	法人本部	調理	1名
災害備蓄食等について	東京都	栄養	1名
食事摂取基準の概要と活用	東京都	栄養	1名
全国救護施設研究協議大会	全救協	管理・介護	2名
財務マネジメント中級過程	東社協	管理	1名
福祉大臣基礎研修	応研	管理	1名
物質依存援助論	多摩総合精神保健福祉センター	指導員	1名
人事管理研修	東社協	管理	1名
救護部会職員研修	救護部会	管理・介護	5名
若者支援の医学的基礎と実践	巣立ちの会	指導員	2名
虐待防止研修	多摩総合精神保健福祉センター	介護	1名
認知症行動療法研修	多摩総合精神保健福祉センター	介護・看護	2名
心の健康セミナー	多摩総合精神保健福祉センター	介護	2名
命の電話公開講座	多摩総合精神保健福祉センター	看護	1名
依存症問題	多摩総合精神保健福祉センター	看護	1名

救護施設サービス研修会	全救協	指導員	2名
パーソナル障害	更生部会	介護・看護	3名
介護現場におけるハラスメント対策	東社協	管理	1名
虐待防止研修	多摩総合精神保健福祉センター	介護	1名
施設長研修会	関救協	管理	1名
障害者差別解消法について	多摩総合精神保健福祉センター	介護	1名

7 行事の実施状況

実施月日	行事名	実施場所	参加者			
			利用者	職員	その他	計
4/14	おやつパーティー	地下多目的ホール	25名	2名		27名
5/3～4	ゆず湯	風呂場	48名			48名
5/23～24	1泊2日バス旅行	川越	33名	25名	11名	69名
6/17	おやつパーティー	地下多目的ホール	22名	2名		24名
6/21	合同俳句短歌の会	あかつき	2名	2名		4名
8/15	おやつパーティー	食堂	27名	2名	3名	32名
8/25	小平団地まつり	小平団地	4名	5名		9名
9/15	光バンドチャリティバンド	日の煉瓦ホール	1名	1名		2名
9/17	清瀬療護園まつり	清瀬療護園	3名	2名	2名	7名
9/22	日帰り旅行	立川	2名	2名		4名
10/6	秋祭り	食堂	32名	18名	14名	64名
10/23	合同ゲーム大会	あかつき	4名	4名		8名
11/3	学芸大学学園祭	学芸大学	6名	6名		12名
12/1	障害者の日の集い	中央公民館	7名	7名		14名
12/16	ふれあいトリオコンサート	上野	3名	3名		6名
12/20,21	ゆず湯	風呂場	46名			46名
12/20	友近やっくんイベント	食堂	20名	10名		30名
12/20	おやつパーティー	地下多目的ホール	23名	3名		23名
12/20	クリスマス夕食会	食堂	47名	16名		53名
1/1～3	正月3が日(初詣)	八坂神社	32名	18名	12名	62名
1/26	新年会	食堂	46名	18名	5名	69名
3/6	お好み食	食堂	45名	15名		60名
3/9	移動水族館	地下多目的ホール	28名	5名		32名